

世界の D&I の画像イメージにみる D&I の多様性

早稲田大学 フェロー会員 ○佐々木 葉
 東京工業大学 正会員 山田 菊子
 建設技術研究所 正会員 米山 賢
 技研製作所 正会員 尾川 七瀬

1. はじめに

著者らは土木学会ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会(D&I 委員会)のメンバーであり、2020年度からは、JSCE2020プロジェクトの一つである「土木 D&I2.0 にむけた活動の場とツールをつくる」としての活動にも取り組んでいる¹⁾。その活動について学会内委員会ウェブサイトその他、Facebook のページや各種フライヤーによって情報発信を行っている。その際にこれら媒体に一貫性のあるイメージがあることは重要と考え、そのためのロゴやテーマカラーのデザインを検討した。その過程で、国内外の D&I に関わる活動主体はどのようなヴィジュアルイメージを用いているのかを参照したところ、D&I のイメージ表現にも国による違いが見られた。ここではその結果について報告する。

2. 方法

ここでは極めて簡易な方法として、Google の画像検索によってヴィジュアルイメージを収集した。検索語は日本語で「ダイバーシティ・アンド・インクルージョン」とし、ついで英語で「diversity and inclusion」、さらにこの英語をフランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、オランダ語、中国語に機械翻訳してそれぞれ検索した。個々の特徴を見るというよりは傾向を直感的に把握するため、画面に 6~70 程度の画像を一覧できるように調整した。検索時期は 2021 年 1 月である。結果の一部を図 1~4 に示す。

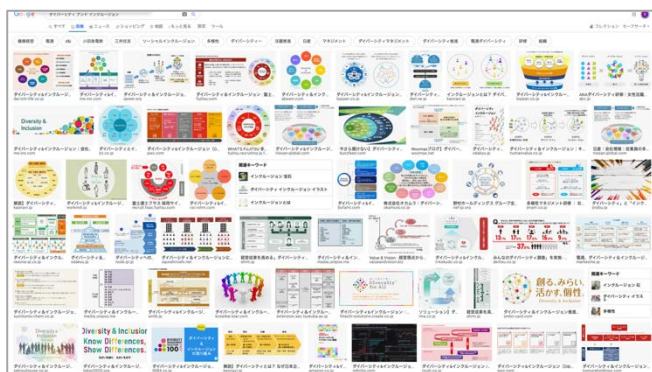


図 1 D&I 画像検索 (日本語)

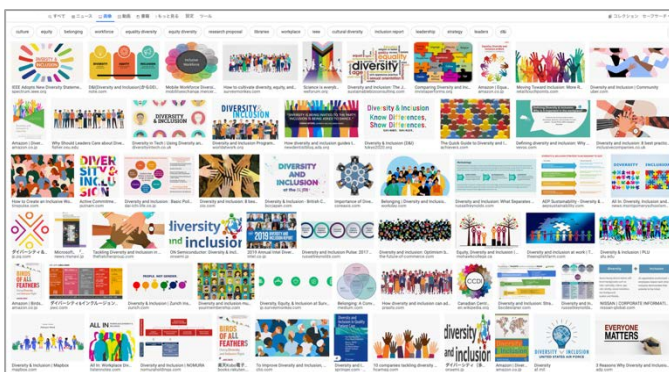


図 2 D&I 画像検索 (英語)

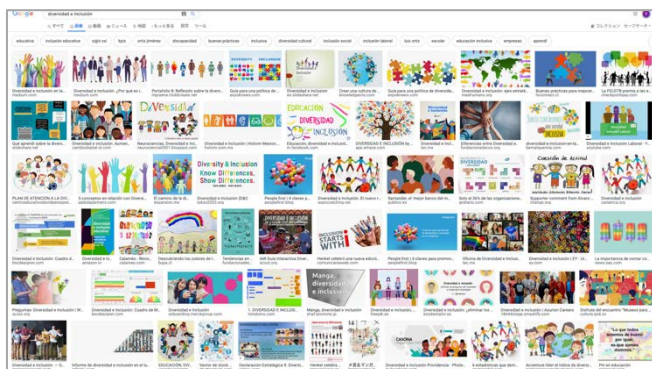


図 3 D&I 画像検索 (スペイン語)

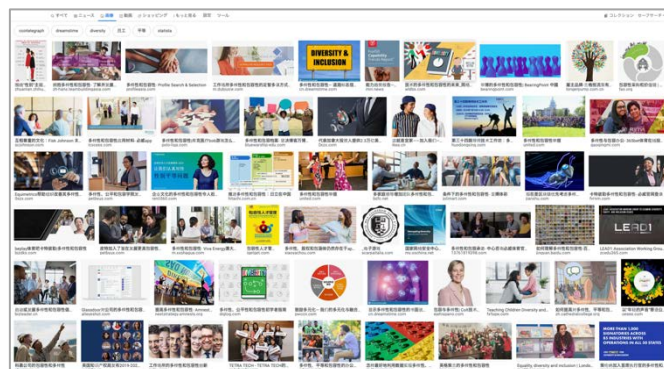


図 4 D&I 画像検索 (中国語)

キーワード D&I, 画像, 国際比較, イメージ

連絡先 〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1 早稲田大学創造理工学部社会環境工学科 e-mail:yoh:waseda.jp

3. 各国の特徴

各国語の検索結果を概観して全体的に感じられる特徴を表1にまとめた。

表-1 各語による D&I 画像検索の結果にみられる特徴

言語	全体的印象	目に付く画像
日本語	文字による解説が多く、プロセスや概念を表すダイアグラムのものも多い。	画像としては円が圧倒的に多く、その色で多様性を示そうとしている。
英語	ほとんどがグラフィックであり、文字による概念説明的なものが少ない。	肌の色の違う手・ジグソーパズルピース・身体と服装が違う人の集合・文字のフォントと色によって、多様性を示す。まだそれらが協力しているイメージがある
フランス語	英語に準じるが、挿入される画像要素の数がやや少なくすっきりしている。手や人の顔に写真を用いたリアルなものが多い。	肌の色のちがう4人の手をガッチリ組んだもの・指で星を作ったもの・色と形を変えた図形が特徴的である。
ドイツ語	フランス語に準じるが、手の割合が多く、子供の画像も多い。ロゴイメージというより個別の資料や事例紹介と思われるものがやや多い。	カラフルな掌・人の写真のなかに必ずしもアフリカン系が含まれてはいない。
スペイン語	色調が明るくポップ。文字による解説的なものが非常に少ない。子どもの絵が多い。	子どものイラスト・身体の色の違いに注目・ジグソーパズル・地球との組み合わせが目につく。
イタリア語	色調が明るいスペイン語よりも鮮やか。肩を組んだり手をつなぐ連帯の表現がやや多い。	複雑な手の組み方・アジア中東系の人のイラストが目につく。
オランダ語	フランス語、ドイツ語に準じる。	カラフルな横断歩道・指紋や鳥のアートのものが独特である。
中国語	海外事例の紹介ではないかと思われるものが多い。リアル写真が多い。組織的活動のロゴに見えるものが少ない。	アジア系以外の人の写真が多い。

同じ画像が異なる言語のもとに出てくる場合もあるが、以上のように言語ごとに全体および個別の画像に特徴がある。この中で日本語のグラフィックのほとんどが円の色違いで表現されている点が興味深い。また、肌の色といった人種的な違いが日本のなかでは全く見られず、図形と色彩による抽象的概念として D&I のイメージが表出していることがうかがえる。また他の言語においてみられる、腕や肩を組むことと、ピースが組み上がること、一本の木になっていること、などによってインクルージョンを表現しようとしているものが日本語では見られていない。欧米語についてはそれぞれお国柄はあるものの、日本語、中国語の結果とは大きく異なっており、グラフィック表現の多様性と具体性において充実している。日本において D&I は多くの場面で耳にするようにはなったものの、その活動主体が用いる情報発信媒体は概念説明的な側面が強く、それぞれの実践内容をグラフィカルに表現するためのデザインが行われている例は少ないのではないだろうか。このように簡単なイメージ検索からも、D&I がその社会におかれている状況の違い、多様性を感じとれることができる。

4. ドボク D&I 2.0 のグラフィック

以上の簡単なリサーチも踏まえて、D&I 推進委員会が主体となって進める JSCE2020 プロジェクトの活動に用いるグラフィックのデザインを検討した。具体的には Facebook ページの画像とアイコン、および D&I カフェトークとして実施するオンライントーク番組のための画像である。テーマカラーは、本委員会の前身が 2007 年に男女共同参画学協会連絡会のシンポジウムに発表してビジュアル賞を受賞したポスターで用いたオレンジを踏襲し、画像には様々な椅子をあしらった。椅子は座る人や状況の特徴を表象するものであり、住民参加の議論においても多様な椅子を揃えることは大切にされている²⁾。これも踏まえて、場の多様性や親密さ、自由さ、選択の自由度といった D&I の概念に沿ったビジュアルイメージであると考えている。今後ビジュアルイメージ面からも D&I のメッセージを深めていきたい。



図 5 D&I 委員会 FB ページのバナー (designed by Pass CO. LTD.)

謝辞 本研究は JSCE2020-2024 プロジェクトにより実施した。

参考文献 1) JSCE2020-2004 紹介シリーズ第 9 回 JSCE2020 プロジェクト 4 「土木 D&I 2.0 に向けた活動の場とツールをつくる」について:土木学会誌 2021 年 2 月号, pp. 98-99
2) たとえば C・アレクサンダー「パタンランゲージ」では「まちまちの椅子」というパタン(p. 613)がある。